

令和5年度第3回学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立久米田高等学校
校長名	若林 武志

開催日時	令和6年2月17日(土)10:00～12:00
開催場所	久米田高等学校 校長室
出席者(委員)	堂之本会長、田中委員、福井委員、逢阪委員、清水委員
出席者(学校)	若林校長、木下教頭、船越事務長、田戸首席、宮本首席、木村教諭、堀込教諭
傍聴者	なし
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度第3回学校運営協議会レジメ</li> <li>・令和5年度(2023年度)久米田高等学校マネージメントシート</li> <li>・令和5年度学校経営計画及び学校評価</li> <li>・令和5年度(2023年度)学校教育自己診断集計結果</li> <li>・令和5年度第2回授業アンケート集計結果</li> <li>・令和6年度学校経営計画(案)</li> </ul>
備考	

議題等(次第順)
・校長挨拶
・協議委員紹介及び事務局自己紹介
・資料確認

<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度第3回学校運営協議会レジメ</li> <li>・令和5年度(2023年度)久米田高等学校マネージメントシート</li> <li>・令和5年度学校経営計画及び学校評価</li> <li>・令和5年度(2023年度)学校教育自己診断集計結果</li> <li>・令和5年度第2回授業アンケート集計結果</li> <li>・令和6年度学校経営計画(案)</li> </ul>
---

協議内容・承認事項等(意見の概要)

<p>&lt;令和5年度学校評価、令和5年度久米田高等学校マネージメントシート、令和5年度学校教育自己診断結果について&gt;          令和5年度学校評価</p> <p>1.学力の向上          全体的には上がっているが、下がっている教科もある。先生方は分かる授業を行っているので、それをどのように学力の向上につなげていくかが今後の課題。</p> <p>2.自主的な活動の推進          部活動の公演等で地域と関わり、様々な活動を実施できている。国際交流については円安等の影響もあり、実施ができていない状況である。</p> <p>3.安全で安心な魅力ある学校づくり          コロナ禍で遅刻への心理的なハードルが下がり、遅刻数が増加している傾向にある。</p> <p>4.個々の生徒が目的意識を明確に持った進路指導          各学年のクラス数が8クラスから7クラスに減ったため、今年度の合格実績の値に関しては減ることが予想される。英語に関しては、BASE in OSAKAという英語学習ツールを春休み中に有効活用するように勧め、英語力を高めていきたい。3年共生生徒に関しても、縁故就職も含め3人の就職先が決定している。</p> <p>5.広報活動の充実          夏・秋・冬の学校見学会には多数の中学生・保護者が来校している。校長ブログについては、現時点で78件から114件まで更新数を増加させた。今後も学校情報を積極的に発信していきたい。</p> <p>6.職員の時間外勤務時間の縮減          働き方改革について、部活動を含めた指標を経営計画に入れる必要がある。勤務時間外の業務を削減していきたい。          令和5年度久米田高等学校マネージメントシート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教務においては、今年度もコロナやインフルエンザで学級閉鎖や学年閉鎖があった。その際は行事予定を変更し、学習時間を確保した。</li> <li>・ICTにおいては、ICT機器破損などの交換をしている。プロジェクターの交換や電子黒板の導入が3月にある。1人1台端末について今後の活用を助めていきたい。</li> <li>・広報においては、学校見学会等に多くの方が参加して下さった。やはり進路の決定の際にこうした機会はとても重要。今後も学校活動等積極的に発信していきたい。</li> <li>・進路指導においては、クラス数が減ったにも関わらず、年内入試の合格者数が昨年度と大差ない。その要因には、少子化の影響を含め、各大学の合格点が下がってきていることが考えられる。</li> <li>・教科について。              数学は、2年生は新カリキュラムである。新しい学習内容も入っている。入試に対応できるような考查内容・授業内容を意識している。数学であっても読解力が求められる。理科は、物理化学生物の3年生対象の夏期講習をした。実験を積極的にしたり、生徒が前で発表する場などを設け、思考力表現力の育成をしている。社会は、カリキュラム変更により、科目が大きく変わっている。悪戦苦闘しながら授業に取り組んでいる。新カリキュラムになり来年度から入試が変わるため、それに対応する授業をしていきたい。</li> <li>・学年の様子について。1年は、2学期終盤にプレゼン大会を実施。学年閉鎖によってマラソン大会が中止となり、授業数も減った。来年度は修学旅行があり、感染症の流行には注意したい。</li> <li>・遅刻が増えている。しかし、5分前までに登校する生徒も増えている。毎朝、正門前にて生徒指導部と教員で見守りを行っている。              数字には現れにくいですが、声掛けを丁寧に行っているなど工夫している。</li> </ul> <p>令和5年度学校教育自己診断結果</p> <p>「担任の先生以外にも相談できる先生がいる」と答える生徒の値が上昇している。人権に関わる項目の値も上がってきている。様々な取り組みの結果が出てきている。授業に関しても「進路に役立つ」「わかりやすい」などの評価が高い。生徒は、進路のことも考えつつ、わかりやすい授業を望んでいる。保護者に関しては人間性を高める授業を望んでいる。国際活動やボランティア活動はできていないため、評価が低い。語学研修なども国内からでもできる取り組みを実施していきたい。</p> <p>質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的にも部活動の入部数が減少していることについて、先輩後輩の関係や役割など人間関係をわずらわしいと考える生徒が増えてきているのが要因と言われている。もう1つの学校の中で解決でき問題ではないのかもしれませんが、生徒のコミュニケーション能力も減退していくのではないかとと思われる。これから学校はどうしていくのかを考えなければならない。グループ学習などで育成していく必要があるかもしれない。</li> <li>・ICTについて中学校でデジタル採点の導入を検討している。どのようにデジタル採点を導入したか。              →大阪府教育委員会からデジタル採点システム「百問繚乱」の紹介があり、導入した。少数の教員で実施し、3学期の考查では8割のテストでデジタル採点を行っている。              準備の手間はかかるが、業務量の削減に役立っている。</li> <li>・1人1台端末の故障率はどうか？他校では高いと聞いている。→本校での故障率は低い。</li> <li>・チャットGPTを活用した問題用紙の作成や英文の採点など、ICT活用が今後広がっていくことが予想される。他校でもICTをどう活用するか関心が高い。</li> <li>・他校の様子を見ているとコロナ禍で部活動の入部率の数値が下がり、上がってきていない。防犯カメラを含め、学校の安心度について関心が高い。生徒・保護者・教員のアンケート結果についてギャップがあるのが興味深い。</li> <li>・授業に求めるものが生徒・保護者・教員で結果が異なる。他校の例ですが、「『楽しい学校生活』を推して」というキャッチコピーを打ち出し、人気が高まっているところもある。進学校とそうではない学校で、学校に何を求めるかが今後もっと変わっていくのではないと思う。通信制の学校も行事を大切にしている。24万人の生徒が通信制に通っている。これからのライバル校は上位校ではなく、通信制高校であるとの話も聞く。学校の存在意義をどう作るか。その上で行事は重要である。通信制でも行事に強い学校もある。有名政治家が公演に来たりする。普通科高校と大きな乖離がある。</li> <li>・他府県では、保護者負担を減らすために修学旅行先を近場で行うようにしている事例がある。しかしながら、1人1台端末については大阪は貸出であるが、他の自治体では保護者負担のところが多。大阪と和歌山のみ貸出。</li> <li>・新カリキュラムから入試も変わるが、どのように対策しているか。→現2年生については3学期の総合的な探究の授業やLHRで大学入試の科目調べを丁寧行った。全員受験の校内模試の受験や3月からオープンキャンパス等に積極的に参加し、情報を集めてくるように指導している。</li> <li>・新課程になることで高校教員が苦勞しており、入試が変わることで更に苦勞があるのではないと思う。</li> </ul> <p>(令和6年度学校経営計画(案)について)          めざす学校像の整理を行った。</p> <p>(スクールポリシーについて)          修正なく承認が出ている。</p>
---

次回の会議日程	
日時	令和6年6月22日10:00～(予定)
会場	大阪府立久米田高等学校